



ごみ有料化から3か月

ごみ減量へ意識高まる

6月1日から新ごみ収集システムに移行して、3か月が経過しました。市民のごみへの意識も高まり、分別も徹底し順調なごみ減量成果と、ごみの適正排出がされています。ごみの有料化のその後を追ってみました。

量の減少にびっくり

第1に注目すべきはごみの量が格段に減ったことです。驚くほどの減量となっています。市の担当課の調査結果をご覧ください。

第2にごみ集積所の排出状況です。地区のばらつきもなく、市内平均し

て優良点を付けられる結果となっています。

これはごみを出す市民が、新ごみ収集システムへの理解を深めたこと、学区毎に設置された環境美化協力員や地区役員が、集積所の巡回し、ごみの適正排出・分別法などを、地域の人たちに分かり易くアドバイスしたことなどが、スムーズに移行でき



再生資源の量は増えてきました

担当課からひとこと

リサイクルが一段と進み、さらに分別の徹底が求められます。1人ひとりがごみに関心をはらい、身近にごみを持ち込まないことが重要です。行政、地域、市民がごみという共通のテーマで協力してきた成果は大です。これをステップにさらに施策を積み重ねていきたいと思ひます。

環境衛生課

【燃えるごみ収集量】

6月の前年度比 36.1%減
7月の前年度比 23.3%減

【粗大ごみ収集量】

6月の前年度比 90.1%減
7月の前年度比 91.2%減

【再生資源回収量】

6月の前年度比 11.7%増
ダンボールとペットボトルの量が増えた。

た要因だと思われます。

ごみ減量のこんな工夫

どこの家庭でもごみを減らす工夫がされ、積極的に資源に出すという意識の高揚もみられます。いくつか紹介します。

〈燃えるごみ減量作戦〉

- 生ごみをプラスチックや紙などの袋につめておく。～毎日少しずつやるのが大切～。その後、その袋を透明のビニール袋に入れ、量が半分位になったら封をし、紐でしっかりしばる。指定袋に並べて入れる。
- スーパーでの買い物時には、トレーやパック類は持帰らず、品物をラップに包む。(店に返す)
- 魚は発砲スチロール箱から袋詰めに変えた。
- 包装紙、袋はできる限り店で断り、家に持ち込まない。
- 綿シャツ類は雑巾として再利用。
- 食べ終えた弁当箱類は細かく切って袋に入れる。
- 生ごみはコンポストにする。
- 生ごみは粗がらと一緒に埋める。
- レシートや請求書なども、見られたくない部分を切り取り、資源ごみに出すことにした。
- ペットボトルや牛乳パックは、きれいに洗い必ず再生資源に出すことにした。
- ティッシュ空箱、菓子箱は資源へ。
- 出先でのごみの持ち帰りを、孫にも徹底している。

茨城県道路里親制度

市内で認定第1号！ 久慈学区明住会

久慈学区「明るく住みよい久慈まちをつくる会」（明住会）が、このほど市内で初めて、茨城県道路里親制度の適用を受けて、国道245号線の一部1.4キロメートル区間の『里親』に認定されました。

市役所で道路管理者の県と市、明住会の三者が協定書に調印し、今後、当該道路の清掃美化活動を行っていくことになりました。

早速、美化活動の一環として、猛暑の中、7月19日(金)と26日(金)の2日間、学区内の各種団体やボラ

ンティアの人たちの協力で『草花ピンカ』の苗3000本を植栽しました。

今回、一番苦労したことは、水の補給と人手の確保でした。1日も早く、補水場所の設置と、花大好きな人たちに、より多く参加してもらえよう募集をしていかなければなりません。

国道245号線を通る人たちの目を楽しませることができ、喜んでいただければ、なによりも植栽に協力してくれた人たちの労をねぎらう言葉になると思います。



元気に育てよ！ 1本1本に愛情をこめて

みんなで育てる花いっぱい

—— 高校総体を契機に ——

日立北高等学校周辺の街路樹の根元に、マリーゴールドやサルビアが元気に咲き揃い、道行く人々の目を楽しませてくれています。

この花は先ごろ開かれた全国高校総体で全国から訪れる人々に、住民の歓迎の心を伝えようと、豊浦自治会が中心になり町内会や周辺の住民、子ども会、小中学生や高校生などに呼びかけて、2000本の花苗を植え付けたものです。日立市コミュニティ推進協議会でも、花苗購入の費用

負担や、苗植えに参加するなどの協力をしてきました。

現在、花の手入れは、植付けた人たちが分担して受け持ち、世話をしています。

自分の好きな花を植え足したり、特性肥料を施したり、親子で水をやったり、それぞれに楽しみながら世話をしています。

豊浦自治会では今後もこの方式で、学区内全体に花いっぱい運動を広げていきたいと話しています。

22のコミュニティ

多彩に敬老会

今年も9月6日の会瀬学区を皮切りに、各学区で敬老会が計



記念品も各学区さまざま

画されています。

毎年、各学区の特色を取り入れたユニークな内容で、お年寄りの皆さんに喜んでもらっています。

今年も昨年度と同様に、子どもたちと一緒に歌や遊戯でふれあい交歓をしたり、地域の人たちのコーラスや踊りを楽しみ、保健師さんの健康チェックを受けられるようです。抽選会で豪華な賞品や花のプレゼントなど地域の人たちの心のこもったプレゼントも用意されています。各学区実行委員会では楽しいひとときが過ごせるような工夫を重ねます。



親子で花の手入れをしています

健康まつり

自分の健康に関心を持つ機会に！

健康まつりは、日立市が国の指定を受けて「健康づくり推進都市（ヘルス・パイオニアタウン）事業」の一環として実施したのがはじまりで



助川城趾公園まで健康ウォーク 缶つりゲームなど楽しむ（昨年の中小路学区）

す。

平成2年度に中里・豊浦の2学区が取り組んだのをスタートに、平成3年度は助川・久慈、続いて、仲町・大みか、大久保・滑川、田尻・水木、宮田・金沢、会瀬、諏訪、油縄子、塙山、日高、中小路が実施してきました。

健康講演会や健康フェアなどを通して、自分の健康について見直し、日常の健康管理に関心を持つ機会になるような事業を行なってきました。塙山学区では地域ぐるみでの健康づくりに取り組むための健康プランを平成12年度に策定しました。

今年度は河原子学区で実施されますが、秋から半年かけて、健康に関する事業を実施するよう計画されています。

健康づくりに ラジオ体操 1,2,3

今年は夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会が当市で開催されました。

日立市健康づくり推進担当



ラジオ体操のうたではじまります

は、これを機会に健康づくり運動をすすめる目的で、「夏休み中のラジオ体操の毎日実施」を奨励し、地域の団体を募集しました。

5つの子ども会とスポーツ少年団、老人会などの19団体が名乗りを上げ、市内のあちらこちらで早起きして身体を動かす姿がありました。

観光パンフレット コミュニティも一役

日立市では、各地からのお客様を歓迎しようと新しく観光ガイドブック



を作成しました。従来の施設等をスポット的に紹介したものに比べ、海、山の自然、産業の奇跡などをじっくりと紹介しました。

特に『日立再発見ウォーク』のページでは、コミュニティ推進協議会の協力を得て、～もっと日立が好きになる コミュニティおすすめ22コースと題し、見て歩きのできるウォークコースをたくさん掲載し、きめこまやかに日立の魅力を紹介しております。

ぜひご利用ください。（無料）

コミュニティあれこれ

パートII

「リーダー」は人々の協力の輪を壊さないため次のことを心がけることが必要である。

「コミュニティ・リーダー十戒」

6. ひとりでたくさんのことを安請け負するな。
7. 目標達成を求めな。
8. 見返りや報酬を求めな。
9. 他人やほかの地域から学ぶことを忘れるな。
10. 「自分はみんなのために働いているんだぞ」などと、自分を特別にするな。

「こみこみ」ってな～に？

この情報誌のタイトル「こみこみ」はコミュニティ、コミュニケーションの頭文字をとって名付けました。

また、コミュニティや日立の資源などをたくさん「込み込み」で掲載していくという意味も込められています。



コミュニティ推進協議会 単会リレー訪問

市内には小学校区をエリアにコミュニティ活動する団体が22あります。それぞれの地域の特色を生かしながら、住民と一緒に住みよいまちをつくるための活動を続けています。今回は田尻学区市民運動をすすめる会を紹介します。

地域住民との連携を密に

田尻学区市民運動をすすめる会

地区の特長

田尻学区は、国道6号・県道10号・JR常磐線の3本の交通網が地域の中央を通っています。山地、台地から低地、海岸とつながる地域です。海拔268メートルの田尻富士の山頂からの眺めは、広大な庭園を思わせる絶景の一語に尽きます。

会の構成

「田尻学区市民運動をすすめる会」は、昭和54年に「日高学区市民運動をすすめる会」から分離、組織されました。現在は田尻コミセンを拠点に活動しています。

本部役員や事務局のほか、文化部、広報部、自主防災部、青少年健全育成部、環境美化部、体育・レク部、地域福祉推進部の8専門部会では様々な事業を行なっています。

民生委員も当会のメンバーで、社会福祉協議会会長が専門部会に入っていて、一緒に活動していることが地区の連携を強めています。

また、回覧で文化部員として活動してくれる人を募り、今後の学区の文化活動を、自由な発想で進めてもらおうとの試みは注目されます。

特色ある行事

〈三世代市民体育祭〉

学区のメインイベントで伝統ある体育祭は種目も多彩です。対抗ゲーム



よべいドン かごをめがけて元気な子

や集団ゲームは、各集団とも選手と応援が一体となります。

昨年は21世紀最初の市民体育祭を



自主防災競技 支部長が消防団長に変身

記念して、「陸前浜太鼓」の元気太鼓と、子どもたちの「笠踊り」が出演しました。また、自主防災訓練を

取り入れユニークな競技を行うなど、地域住民のコミュニケーションが深められました。

〈支部懇談会〉

毎年、総会が終わると、会の活動の説明や地域の連帯を高めるために、各支部別に懇談会を開いています。部会長以上の役員が地域集会所などに出向き、自治委員や老人会、子ども会育成会の人たちとの話し合いをしています。各支部の要望を聞くよい機会にもなっています。

今後の展望

「本部と支部の連携を密にしたい。」

現在の事業をさらに充実させ、特に総合的な田尻の文化まつり、健康づくり、社協のさんあいクラブの活性化を図っていきたい。昨年策定したコミュニティプランを活用し、活性化のための新しい人材育成もしたい」と、意欲的な各専門部会長と大森健一事務局長。「何も言わなくても、皆が連携して活動してくれるから」と、大高弘会長は胸を張ります。



会長 大高 弘
問い合わせ 田尻コミュニケーションセンター
TEL 42-1552
世帯数 4,799
人口 13,457
(平成14年6月1日現在)